

第7回正宗文庫セミナー

説話文学会二〇二六年度九月例会

正宗敦夫と正宗文庫

1936(昭和11年)に、国文学者で歌人の正宗敦夫(1881-1958/正宗白鳥の弟)が創設した正宗文庫(岡山県備前市穂浪)は、今年2026年に創立90周年を迎えました。

敦夫が丹精込めて蒐集した古典籍類は、重要な文化資源として、時を超えて今に伝わっています。かけがえのないそれらの価値を、ここ岡山の皆さまにお届けする「正宗文庫セミナー」も今回で7回め。今年は説話文学会とともに、「正宗敦夫と正宗文庫」のテーマでお届けします。

大勢の皆さまの御参加をお待ちしています。

開 会 日 2026年 9月26日(土) 13:30~17:00

場 所 就実大学 S102大講義室
(〒703-8516 岡山県岡山市中区西川原1-6-1 ※裏面参照)

開会挨拶 就実大学長 いのうえ 井上 あえか 一般財団法人正宗文庫理事長 まさむね ちはる 正宗 千春 国文学研究資料館副館長 おかざき まきこ 岡崎 真紀子

基調講演 講 師 慶應義塾大学教授 おがわ たけお 小川 剛生 【演題】「正宗敦夫の蒐書と出版事業 一万葉集とその注釈」

研究発表 発表者 就実大学教授 かわさき つよし 川崎 剛志 【演題】「備前西大寺の勧進帳・縁起絵巻の副本」

発表者 国文学研究資料館教授 かんさく けんいち 神作 研一 【演題】「正宗敦夫のまなざし—近世和歌史研究追跡—」

司会・コメンテーター コメンテーター 東京大学教授 あおやま ひでまさ 青山 英正 西尾市岩瀬文庫長(学芸員) はやし ちさこ 林 知左子

閉会挨拶 説話文学会事務局 わたなべ まりこ 渡辺 麻里子

定 員 100名 受講料 無 料
(説話文学会会員は要参加費1,000円)

申込方法 事前申込制 先着順

①Eメール bunko.seminar@nijl.ac.jp

②ウェブフォーム <https://forms.office.com/r/TQKWmT4Pv0>

上記いずれかの方法でお申し込みください。後日Eメールにて受講票を送付いたします。

Eメールの場合は、タイトルを「第7回正宗文庫セミナー申込」とし、本文に氏名、氏名ヨミ、メールアドレスを記入し送信してください。※説話文学会会員の場合は、会員である旨とご所属も記入してください。ご記入いただいた個人情報は、当行事運営のために使用します。

お申し込みはこちら

締 切 9月14日(月曜日)

受付開始

8月 7日(金)

締 切

9月14日(月)

ただし、定員になり次第締切とします。

主 催 国文学研究資料館
説話文学会

特別協力 一般財団法人正宗文庫、就実大学

透かしは正宗文庫所蔵『雪の下芽』



正宗敦夫と正宗文庫

開会挨拶

就実大学長
いのうえ

井上 あえか

一般財団法人正宗文庫理事長
まさむね ちはる

正宗 千春

国文学研究資料館副館長
おかざき まきこ

岡崎 真紀子

基調講演

講師



慶應義塾大学教授

おがわ たけお

小川 剛生

【演題】「正宗敦夫の蒐書と出版事業 一万葉集とその注釈」

正宗文庫では文献調査に伴い、デジタルアーカイブ化と公開が進められています。しかし、既存の目録には未掲載の典籍・文書も依然として多く、正宗敦夫宛ての膨大な書簡類も未整理です。いずれも文庫の設立・維持管理の実態のみならず、敦夫の研究活動や人的交流を解明する重要な手がかりとなります。まずはそれらにより、敦夫の蒐書活動や文庫運営の実際を紹介します。

さらに、万葉集研究を事例に、敦夫の学問形成の出発点を遡ります。郷土の古調(万葉調)歌人への関心、万葉集と注釈書の蒐集、アララギ派歌人との交流、そして歌学雑誌での選注の試みと挫折を辿っていきます。実作と研究とのあいだで、敦夫がいかに自己の進路を見出していったかを述べた上で、蒐書・出版事業と古典研究との連関について明らかにします。

研究発表

発表者



就実大学教授

かわさき つよし

川崎 剛志

【演題】「備前西大寺の勸進帳・縁起絵巻の副本」

備前西大寺の観音院には、室町時代作の勸進帳二点(転写か)、室町時代作の縁起絵巻一点(転写か)、江戸時代作の縁起絵巻四点が伝来します。それらはすべて美しく装訂された正本で、副本のないことが不審でしたが、正宗文庫から勸進帳一点(新出二種を含む四種合写、寛文縁起絵巻断簡一点(江戸中・後期の転写本)が現れました。

この報告では上記勸進帳を取り上げて、まず、旧蔵者の沼田頼輔(1867~1934)が、明治時代、一時岡山に住み、地元の史家と協力して郷土史研究を推進した県外者のひとりであったことを示します。次に、新出の勸進帳によって、明応四年(1495)焼失後の西大寺再興事業の経過と縁起絵巻の役割がいっそう明確になることを報告します。

発表者



国文学研究資料館教授

かんさく けんいち

神作 研一

【演題】「正宗敦夫のまなざし—近世和歌史研究追跡—」

藩主池田家の気風が行き渡った備前に生を享けた正宗敦夫は、郷土を愛すること並々ならず、郷土縁りの書物を熱心に蒐集しました。早く十代で井上通泰に入門し、池袋清風らの指導を受けて歌作に励んだことにより、その関心はかの地の桂園派歌人そして派閥の領袖香川景樹へと向けられ、やがて弥富破摩雄の知己を得て桂園派研究の最重要文献を集積するに至りました。本発表では、敦夫が蒐集した香川景樹関係文献および晩年のノートルダム清心女子大学での講義原稿に基づいて、敦夫による近世和歌史研究の種々相を追跡します。

司会・コメンテーター

東京大学教授
あおやま ひでまさ
青山 英正

コメンテーター

西尾市岩瀬文庫長(学芸員)
はやし ちさこ
林 知左子

閉会挨拶

説話文学会事務局

わたなべ まりこ
渡辺 麻里子



場 所 就実大学 S102大講義室
〒703-8516 岡山県岡山市中区西川原1-6-1

問い合わせ先



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館
National Institute of Japanese Literature

東京都立川市緑町10-3
HP: <https://www.nijl.ac.jp/>
E-mail: bunko.seminar@nijl.ac.jp

透かしは正宗文庫所蔵『雪の下芽』

お申し込みはこちら

締 切
9月14日(月曜日)

